



## 大正北ノ川

### 大正地域・東部の基幹集落

窪川方面から弘瀬トンネルを抜けて四万十川を少し下った相去川との合流点に北ノ川集落がある。大正地域での東部の基幹集落として発達。JA高知はた農協支所、北ノ川郵便局などがあり、65世帯人口200人の集落である。今は通る人も少なくなつたが、窪川の秋丸に通ずる弘瀬峠登り口に曹洞宗・観喜禅寺がある。住職の山辺さんにお寺に伝わる土佐山内家より拝領された茶碗を見せてもらった。観喜禅寺の住職が病気の祈禱に力があり、山内家に病人がでると迎えがきて治療し、その功によって拝領されたものだといふ。



峠登り口に曹洞宗・観喜禅寺がある。住職の山辺さんにお寺に伝わる土佐山内家より拝領された茶碗を見せてもらった。観喜禅寺の住職が病気の祈禱に力があり、山内家に病人がでると迎えがきて治療し、その功によって拝領されたものだといふ。



子どもたちの声が溢れる集落の一角  
旧北ノ川橋から相去川を30mぐらいたとこに、20戸位の町営住宅団地がある。窪川へ、近いこともあって、若いひとの世帯が多い。大正地域には珍しく休日ともなると元気な子どもたちの声が溢れている。

地元のお年寄りに話を聞くと、子どもたちの声が聞こえるのはうれしいが住宅との



交流が少なく、昔のよさが薄れていくような気もする  
と話す。

陽だまりの中でゆったりと農作業



田舎を出て相去川を少し下っていくと道下で農作業をしていた宮脇夫妻に出会った。農協を定年後に10a余りの田んぼを利用し、桃づくりを始めたといふ。「収入はわずかだが他の農作物に比べて手間がかからず、年寄りにはぼちりよ」と日焼けした顔をほころばせていました。

現役で活躍する沈下橋

集落の端に位置するところに昭和32年に架けられた上宮沈下橋がある。上流に取水橋が架けられていますが今も集落からは最短距離で対岸に行けるとあって、人が車が行き



に取水橋が架けられていますが今も集落からは最短距離で対岸に行けるとあって、人が車が行きやすい夏になると絶好の夕涼みの場所となる。